

8/24/45
 ① Int. Cl. ② 日本分類
 C 09 b 23 D 3
 B 15
 B 202
 JAPAN 223
 GROUP
 CLASS
 RECORDED 8

日本国特許庁

①特許出願公告

昭47-26653

②特許公報

④公告 昭和47年(1972)7月18日

発明の数 1

(全4頁)

47200T-E, E21, NIKA.28-02-69.
 JA-014592, T30.
 Nippon Kagaku Kogyo-Sho KK, *JA-7226653-R.

C09b (18-07-72)...
 AZOIC DYEING COMPSN - AVOIDS WASTAGE FROM
 DUST FORMATION...

NEW

A stabilised compsn contg a mixture for azoic dyeing,
 organic amine, solvent and an alkali and which does not
 scatter.

DETAILS

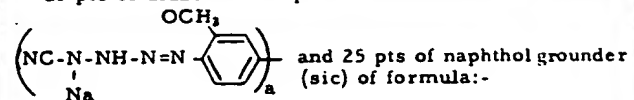
Organic amines are preferably water soluble and
 may be triethanolamine, triisopropanolamine, ethyldieth-
 anolamine, dibutanolamine, diethanolamine, isopropan-
 olamine, ethylene diamine, diethylenetriamine, pyridine,
 and piperazine. Organic solvents may be the above
 organic amines, varied alcohols, polyhydric alcohols
 or their ethers, esters, amides, lactones, various amides
 such as DMF and organic S-contg compounds such as
 DMSO, thioglycols, and also dioxane and THF.

E7-D4, E7-D11, E10-B1B, E10-B3B, E10-D3,
 E21-E, E26.

55

EXAMPLE

25 pts of diazo amino cpds of formula:-



(a is undefined)

of 10% aq. NaOH, 10 pts triisopropanolamine, 15 pts
 Emulgen 910, 150 pts ethyl cellosolve and 100 pts diethy-
 lene glycol and warmed slightly to give a pale yellow
 homogeneous soln. The soln stood for 1 month for 0-5°C
 and showed no precipitation or discoloration.

47200T

るものであつて、その内容は水溶性ジアゾアミノ
 化合物とナフトール下漬剤との混合組成物である。
 この種の染料は他の一般染料に比べて安定性に欠
 けるが、特にこのものの含水状態ないし水溶液状
 態では容易に染料の分解、発色、変質等をおこし
 20 て到底保存に耐えないのみならず使用の面でも重
 要な制限をうける。染料組成中のジアゾアミノ化
 合物の粉末は飛散性に富みかつこのものが人体に
 ふれると粘まく、ひみ、肝そう等に悪質な影響を
 およぼすものであることは既に公知の事実である。
 25 従つて当然のことながらかかる染料の製造又は使
 用の面では染料ないし粉末状染料の性質から誘因
 される種々な欠点ないし障害を防止する工夫がお
 こなわれているのが実情である。即ち例えば染料
 粉末に飛散防止剤を添加したり又は有毒視される
 30 ジアゾアミノ化合物だけをペースト状として供給
 し、使用に際してナフトール下漬剤と混ぜて水溶
 液の形とする方法等がとられている。ところが何
 れの方法でも染料の完全な飛散防止が期待できず
 かつ溶解する場合、それに糊材等を加えて色糊と
 35 する場合、或いは色糊の印花作業中にわたつて操
 作のはん雑に加うるに染料濃度の正確性と安定性

末性であるために粉末に基づく粉じんが全くない
 ことが特徴である。さらに詳しく本発明方法を説
 明すれば、本発明方法の染料組成物の組成内容は、
 従来の如き混合アゾイック染料に苛性アルカリの
 存在で有機アミンの一種又は二種以上加え、かつ
 これらを均一化しうる溶剤の一種又は二種以上か
 らなることを特徴とするものである。

本発明に使用するジアゾアミノ化合物は一般に
 分子中に-N=N-N<基をもつ化合物であつて
 通常芳香族第一級アミン類(一般にナフトールベ
 ース類と称す)のジアゾ化合物と脂肪族、芳香族
 等の第一又は第二級アミン類(一般に安定剤と称
 す)とのカップリング反応によつて製造できる。
 かかるジアゾアミノ化合物は一般に熱、光、湿気
 等に対し不安定であり容易に分解する。本発明者
 はかかる不安定なジアゾアミノ化合物の安定化に
 は有機アミン類を含む溶剤組成物が卓越した効果
 を示すことを発見した。

本発明方法としての染料組成物を構成する有機
 アミン類は一般に水溶性であることが望ましく、
 脂肪、芳香、複素環、脂環類を問はず、かつア
 ノ基としてはその級を問はずさらに置換基



(2,000)

特 許 公 報

特 許 庁 長 官 殿

昭和 46 年 3 月 24 日

1. 発明の名称 **フラスコヒタン ケンブ テンケンボウシキ**
 2. 発明者 **複数被点検部の点検方式**

住 所 **神戸市兵庫区和田崎町3丁目10番地の1**
三菱電機株式会社神戸製作所内

氏 名 **エ ビ サカ トシ ノブ**
藤 老 坂 敦 信

3. 特 許 出 願 人
 住 所 **東京都千代田区九の内二丁目2番3号**
(601) 三菱電機株式会社
 代 表 者 **大 久 保 一 郎**
4. 代 理 人 **通 販 貞 子**
 住 所 **東京都千代田区九の内二丁目2番3号**
三菱電機株式会社内
(6046) 弁理士 鈴 木 正 高
(連絡先 東京(212)6933 特許部)

5. 添付書類の目録
 (1) 明 細 書 1通
 (2) 図 面 1通
 (3) 発 明 書 1通
 (4) 出願手数料 1通

明 細 書

1. 発明の名称

複数被点検部の点検方式

2. 特許請求の範囲

複数個の被点検部にそれぞれ接続されかつ前記被点検部が正常の時のみ出力を発生する点検部と、前記各点検部の出力を入力としかつ計数表示を行なう制御部と、前記制御部の出力に対応して前記各点検部を選択して電力を供給する電源部とを備え、前記被点検部が正常の時のみ点検部から送出される出力によつて前記制御部を計数表示させるとともに前記電源部を制御して前記各点検部に順次電力を供給するようにしたことを特徴とする複数被点検部の点検方式。

3. 発明の詳細な説明

本発明は複数個の被点検部、例えば複数個の保護継電装置等を点検する点検方式に関する。

従来一般に用いられていた複数点検部の点検装置は、第1図に示すように複数個の被点検部(1a)～(1n)にそれぞれ点検信号を供給

(1)

②特願昭 46-17106 ⑪特開昭 47-26653

④公開昭47.(1972)10.25 (全 3 頁)

審査請求 有

⑩日本国特許庁

⑬ 公開特許公報

庁内整理番号

⑤2日本分類

6733 52
 6260 24
 6360 24

58 E0
 105 B0
 110 C0

し、被点検部(1a)～(1n)が正常の時のみ信号を受ける複数個の点検部(2a)～(2n)と、前記点検部(2a)～(2n)にそれぞれ電力を共通に供給する電源部(3)とから構成されている。そして電源部(3)の入力端(4)、(5)間に電圧を供給すると、電源部(3)は例えば5Vの出力電圧を前記点検部(2a)～(2n)にそれぞれ供給する。次に論理回路等で構成されている前記点検部(2a)の入力端子(6)にスタート信号を供給すると、点検部(2a)は点検信号を被点検部(1a)に供給する。この場合、被点検部(1a)は点検部(2a)よりの点検信号を受けると、正常時のみ信号を点検部(2a)に帰すようになっている。この結果被点検部(1a)よりの信号を受けた点検部(2a)は出力を発生し、この出力は次の点検部(2b)にスタート信号として供給される。このようにして被点検部(1a)～(1n)の点検を順次行ない、全被点検部(1a)～(1n)が正常の場合には、最終点検

(2)

部(2a)の出力端(7)に出力を発生する。

なお、途中の被点検部が異常の場合には、その被点検部に対応する点検部は次の点検部にスタート信号を供給しないために点検ソフト動作が停止し、異常であることを表示する。

しかしながら上述した構成では、複数個の被点検部にそれぞれ接続された点検部が点検動作中常時電源部に接続されているために、被点検部の数に対応して電源部の消費電力が多くなり、発電所等のように直流電源を蓄電器に頼っているところでは容量不足が大きな問題となる等種々の欠点を有している。

第2図は本発明による複数被点検部の点検方式の一実施例を示す回路図であり、同図において(8a)~(8n)は被点検部(1a)~(1n)に接続された点検部であり、この点検部(8a)~(8n)は電源が供給されると対応する被点検部(1a)~(1n)に点検信号を供給し、対応する被点検部(1a)~(1n)が正常の時のみ出力を発生する点検部、(9)

(3)

には最終被点検部(1n)を点検した後、前記制御部(9)の計数表示動作および電源部(10)の切替動作を停止する。なお被点検部(1a)~(1n)内に異常がある場合には、異常を有する被点検部からは出力が得られないために対応する点検部は出力を発生せず、制御部(9)は異常な被点検部に対応した計数を表示して停止する。

以上説明したように、本発明による複数被点検部の点検方式は、被点検部にそれぞれ接続された点検部に順次電源を供給しながら点検を行なう方式であるために、電源部は1個の最大消費電力を最大出力とするものでよく、電源部は従来に比較して極めて小型でよく、また消費電力も著しく減少する等種々の効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は従来の点検方式を説明するための回路図、第2図は本発明による複数被点検部の点検方式の一実施例を示す回路図である。図中同一符号は同一または相等部分を示す。(1a)

(5)

は前記点検部(8a)~(8n)の出力を入力としかつ入力信号を計数表示する制御部、(10)は前記制御部(9)の出力に従つて前記点検部(8a)~(8n)に電力を供給する電源部である。

以下このように構成された回路の動作を説明する。まず始めに電源部(10)の入力端(11)、(12)間に電圧を供給すると、点検部(8a)のみに電圧が供給され、点検部(8a)は被点検部(1a)に点検信号を供給する。この場合、前記被点検部(1a)は正常時のみ出力を発生し、その出力は前記点検部(8a)に供給される。この結果点検部(8a)は前記被点検部(1a)よりの信号を受けて出力を発生し、この出力を制御部(9)に供給する。制御部(9)は点検部(8a)の出力を計数表示するとともに電源部(10)を制御し、次の点検部(8b)のみに電力を供給する。このようにして被点検部(1a)~(1n)を順次点検し、全被点検部(1a)~(1n)が正常の場合

(4)

~(1n)・・・被点検部、(2a)~(2n)・・・点検部、(3)・・・電源部、(4)・・・スタート入力端子、(7)・・・出力端子、(8a)~(8n)・・・点検部、(9)・・・制御部、(10)・・・電源部

特許出願人 代理人
弁理士 鈴木正

(6)

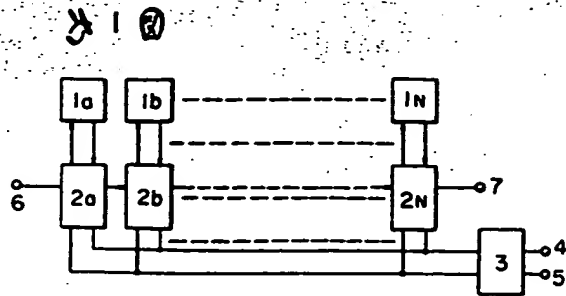
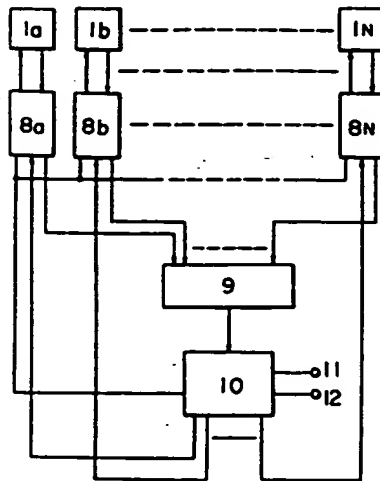


図 2



特許代理人 鈴木正清